時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千三百九十三號　月曜日
明治廿二年八月廿六日（甲戌）
舊曆己丑八月朔日
日出午前五時九分　日入午後六時十六分
月出午前四時二十四分　月入午後六時二十二分
滿潮午前五時二十一分　午後五時三十九分
（西曆一千八百八十九年）

時事新報代金の早達便

本社は時事新報代金送達の便を謀り内國通運會社と特約を結びたるに就き左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早達便よ御依托相成候得ば特別よ左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候

現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達するに爲替料三錢郵券料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早達便よ依れば五圓以下は只四錢の運賃のみにて送達し表記の金額を送達する場合は右の運賃に爲替料一割の代金一割を加へ悉皆の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入には最も便利なる法と存候

時事新報社

内國通運會社貨幣早達便取扱所（追々箇所増設の筈）

東京 佐内町　山城 京都　攝津 大坂　同 神戸　伊勢 松坂　同 安濃津　同 四日市　尾張 名古屋　同 熱田　三河 岡崎　遠江 掛川　同 袋井　同 濱松　駿河 靜岡　同 吉原　同 藤枝　甲斐 甲府　伊豆 三島　相模 藤澤　同 小田原　同 横須賀　武藏 程ヶ谷

武藏 鴻ノ巣　同 本庄　同 八王子　同 大宮　同 保土ヶ谷　同 浦和　下總 千葉　常陸 水戸　同 土浦　近江 大津　同 長濱　美濃 岐阜　同 大垣　信濃 長野　同 上田　同 松本　同 輕井澤　上野 高崎　同 前橋　同 横川　上野 沼田　同 澁川

下野 宇都宮　同 栃木　同 桐生　同 足利　磐城 白河　岩代 福嶋　同 須賀川　同 若松　同 郡山　陸前 仙臺　同 塩竈　陸中 盛岡　陸奥 青森　羽前 山形　羽後 秋田　越前 敦賀　加賀 金澤　同 小松　能登 七尾　越中 富山　同 高岡　同 伏木

越後 新潟　同 直江津　同 柏崎　同 新發田　因幡 鳥取　出雲 松江　備前 岡山　安藝 廣嶋　長門 赤間關　紀伊 和歌山　讃岐 丸龜　同 高松　伊豫 小松　筑前 博多　肥前 長崎　肥後 熊本　薩摩 鹿兒嶋　渡島 函館　石狩 札幌　根室 根室

内國通運會社貨幣早達便運賃表

（時事新報代金は此表より二割引を以て送達すべし）

居金高	遠近よ拘わらず運賃金
五圓未滿	五錢
同 十圓迄	同 七錢
同 十五圓迄	同 十錢
同 二十圓迄	同 十三錢
同 廿五圓迄	同 十六錢
同 五十圓迄	同 二十錢

又此早達便よ托したる金員不着の節は内國通運會社之を辨償して送出人に損毛を掛けざる定めなり

時事新報

腕力沙汰

凡そ世の惡習慣を除かんとすれば先づ世間の人をして其惡を惡むの氣風を養はしめ斯くて其氣風の壓力を以て之を退治するの外ある可らず例へば歐洲の新聞紙は男女の醜行等を寫すことを憚り最下流の讀者を相手にする者の外は先づ以て之を避くるの習例よして現に先頃墺地利皇太子の變死に際し英國倫敦にてペルメルガセットなど云へる小新聞紙は其變死の縁因を究めて同時に何々孃も自殺しより其關係は云々なりとて下流の讀者に媚ひたるが如くなれどもタイムス、スタンダード、デーリー ニュウス等の新聞紙は流石に奥ゆかしく之を色に現はさゞりしが如き英國中等以上の氣風が自ら記者の筆を遮りて其記事を許さゞりしものなる可し又歐洲諸國よて政事上に大議論あるか若くは議院議員撰擧等の騷々しきに際し政黨熱心の人々が表彰會を催ほすみとあり特に先般佛蘭西よて例のブーランジエー將軍がセーヌ撰擧區を爭ひたる時の如き黨人銘々の激昂興奮にして雙方の黨派が撰擧人に宛て丶廣告する其紙を破り合ひ或は將軍が髯をまくりてセーン區民に糞尿するの圖畫を撒き散すなど鬼の如き荒くれ男が市街に充滿するの勢にして東洋流の考にて婦女子が其近邊に立ち寄るなどとは思ひも寄らざる事なれども此鬼人の群集する間を乳母が子供の手を引きて見物ながら通行する等の場合もあれば人々爲めに道を開きて毫も不禮の擧動なく乳母も子供も先天の心中に於て之を疑ることを知らざるもの丶如し孰れも世間の氣風にして新聞紙必ずしも嚴格ならず道路の黨人必ずしも粗暴ならざるに非ざれども氣風の壓力には敵す可らず自然に相戒めて前條の習慣を成したるものならんのみ

近頃世上よ忌はしき風聞あり何々の宴會にて某氏は某氏と議論の末、終よ燭臺を振り上げたり某地方の政談演説會よ壯士何某は辨士と演壇よ格闘せり某氏は或懇親會に隱し持ちたるステッキを以て相手某々を打擲したり或る地の壯士は某新聞屋に押し寄せて其記者を窘めたり又昨今は地方の志士が縣會議員に辭職を勸めて例の通りに毆打したりなど毎度我輩の耳に達する所にして誠よ小兒の戯なれども壯士と云ひ志士と云ひ苟も道理を解する者が道理を離れて腕力を用ふる其精神を廣めて申せば國事に兵を動かすの端緒ともなるべく閭戸綱紀の者あるものは我が日本社會の氣風は漸へて今より之を一掃するの工風なかる可らず世に決鬪は野蠻の遺習なりと云ひ我輩も亦然りと信ずれども左ればとて毆打騷ぎの卑劣なるが如きよ非ず決鬪は武器を定め場所と時刻とを定め又雙方立合人を定めて準繩に勝負する者よして志氣の凛然たる自から士族風の精神あれども毆打は相手の不意に出で或は數人にして一人を襲ひ醉氣情慾に使はる丶者にして酷に之を評すれば折助風の所業と云はざるを得ず且つ其怪我傷害の點より申さんか近時歐洲大陸に行はる丶決鬪の如き云はゞ一種の儀式よして其刀劍を用ふるものは往昔我が武家に行はれたる木刀試合の類よして縱へ之を受け損じたりとて輙ち生命を害するに至らず現よ日耳曼地方よは決鬪倶樂部あるものありて常に劍法を修錬し或は倶樂部同士よて雙方委員を撰擧して眞劍勝負を爭はしむることありて一生幾十回の決鬪を經驗するものさへあり即ち決鬪に負けたるとて面部よ一創を增す位の事にして毆打の時として人を傷け或は之を不具にして間接直接其の生力を害するの比に非ざるなり今や世間心ある士人は決鬪を野蠻の遺習として之を擯斥する其際に志士と云ひ壯士と云ひ苟も人事を辨ずるものが毆打の卑劣を實行して其心よ愧ぢざるが如きは言語同斷の次第にして我輩は之を一個人に責むることを好まず唯我が社會一般の氣風が如何なれば此卑劣を許して敢て之を罰せざるや訝よ不審よ堪へざるなり近日愛蘭地方を巡覽したる人の噺に同地方の貧困は兼ねて聞きし所に倍して人民の慘状は目も當てられず積年地主に膏血を絞られ枯渇零落したる其餘勢は俄に回復する望もなく土民は英政府の處置を怒りて狂憤恰も烈火の如くたまく日本人などが巡廻して地方の旅宿に投ずれば主人は忽ち詰め掛け來りて今の愛蘭事件よ就き外國人の公平なる御所見を伺ひたしとて熱心よ疑問を試むれば隣室の客人も出て來りて拙者も共々伺ひたしとて身政治上よ注意せざる者は殆んど當惑する程の次第よして全島の人民激昂の頂上よ達しゐる者なれども感心なる事には情を抑へて敢て腕力よ訴ふる杯の場合少なく愛蘭事務大臣バルフチール氏は時よ此島内に出張して演説などを試むれども人民が之れに無禮を加へて腕力沙汰に及びたる等の不體裁を聞かず蓋し腕力毆打等の所業は一概よ之を獸行（ブルータル コンダクト）と稱して英國社會の許さゞる所なれば之を用ふれば用ふる程ますく世上の好意を失して事の成功を妨ぐべく扨こそ無學無識の輩も謹んで自から之を制して道理の人に勝つを待つみとならん意ふに我國の士人中には此邊の趣を熟知するものも多からんと雖ども腕力家の間に上下するものは往時傳馬町の獄屋にて罪業の最も猖ましき者が其上席を占めたると一般、其向きの功名手柄を以て其席順を定むるなどの事情もありて心にもなき暴行を働き横着に外面を裝ふ等の趣向もあらんか一個人の私に立ち入れば世上氣風の方向よ由りて如何やうにも身を處するものある可きが故に我輩は國の安寧面目の爲め又我が士人の品格の爲めに世上一般の氣風をして痛く彼の腕力沙汰を戒め斯かる獸行を社會に許さゞるの方向よ赴かしめんみとを企望して已まざるなり

雜報

○大坂川口の埋塞　此程の電報よ記載せし如く今回大坂府下の出水に付き淀川筋より泥砂を推流せし事夥しく市中の枝川は勿論安治川口天保山過十番杭より四五番杭に至る間の川底よ土砂非常に堆積し殆んど淺瀬となりしかば大坂商船會社の汽船にて稍や大形の船舶は忽ち出入港に差支へ現に去る廿一日和歌山縣よりの照會に應じ同社汽船よ白米五百石を積込み出發せんとしゝるも出港の出來ざるより直に最小の汽船に積替へ漸く廻送せし次第なれば從來九州中國等に航海する汽船も更よ出入する能はず依て去る二十二日は大坂府土木課より技師を派遣し其箇所を測量し直よ澪筋の浚疏よ取掛る筈なりといふ

○人民集合　一昨日の本紙電報欄内に見えし如く去る廿二日の午後四時頃今回の水難に遭ひし嶋下郡麥田村外數十箇村同郡鳥飼村外數箇村の人民凡五百餘名が竹鎗又は薙刀等を携へ番田村に設けある用水路番田大樋の近傍に群集し今にも由々敷一揆の起らんず有樣なる由を聞込みたる茨木警察署よては同警察署長中尾警部並に小岩井警部等が同署詰巡査數十名を引率して直に現場よ馳せ付け多人數群集の次第を問ひ質したる上百方説諭し先づ大事よ至らずして同夜無事に解散するを得たるも尚は重立ちたる者二三十名計は容易に立去らずして種々協議し翌二十三日朝に至り是亦無事よ退散したる由同署より大坂警察本部へ電話よて通報し來りたれば廿三日の午前高崎警部長は實地の模樣取調の爲めとて自から茨木警察署へ出張し五百餘名の内重立たる者を取調中なるが風説よ依れば右の紛は番田村大樋の事よ關する由なれど詳細は後報よ譲ると大坂よりの通信に見ゆ

○京都府下の水止工費　京都府下にては去る十九日以來の出水にて諸處の堤防道路橋梁等破壞若くは流失し

たるより差當り
二日より郡部常
箇所此總延長千四
二萬三千六十六圓
殘金にて補ひ殘り
豫備費中より支出
議の末該土木費の
圓合計一萬七千圓
臨時郡部會を開
議するよし

○土木事件よ付
よ付事情具申と
可止、猪竹輔之三
調圖三郎熊谷三郎
郡等よりも夫々
より續々上京の途

○銅の廻送　英國
を積みて本日清國

○水產物出品の
十三年の内國勸
鹽魚、諸鳥獸肉の
鹿、熊等總數百餘
本店、根室、千嶋撰
て目下出品の準備

○稻の黄萎病豫防
の害よ遭ふて農民
地に尠なからざる
の工風を以て當
何鹿郡東八田村の
る豫防法は 著
略を記して農家の
らんとするの兆あ
の蔽を拂ひ蓄麥稈
二回なれば其害を
歩に付硫酸石灰
生石灰と硫黄とを
田面に撒布するも

米國の人情

第四　娘の專

米國の娘は男子に
ものなり蓋し其之
育ありて男子と共
るべく稗史小説の
類のみならずスペ
尚なる咄柄よ喙
會に立入れば已れ
るよ耳綸を求むる
他國の女子の如く
何なる人に懇因
を欲して我身の行
耳人とすべきか如
して配偶を撰擇す
とて目的とする所
れ幾分か少く此日
るの望みあるか又
名を流すの要瑞な
に只だ財產ある